受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

事務事業	■サービス部門 経企-21 平和推進事業												
No./名 称	□支援部門												
主管課	文化人権推進課(文化推進課) 関連課												
分野名	平和•人権												
目標	平和意識の醸成												
(目標値)	平和の大切さを考えるための事業の実施や市民などの活動への支援を行います。												
人口等の	データ区分	2	23年度	2	22年度			21年度	備考				
データ	人口	17	77,204人	17	77,161人			176,669人		・各年4月1日			
	世帯数	79	,217世帯	78	,812世帯			78,131世帯	†	(住民基本台帳)			
	事業の対象者数	4	1,068人		,302人			4,879人					
運営資源	決算値(千円)		1,176		1,025			1,150					
状 況	(国・県)												
	(負担金等)		1.170					4.450					
	(一般財源)		1,176	_	1,025			1,150					
	人員配置数		1.3		1.3			1.3					
	人件費(千円)		11,388		11,461 鎌倉平和推進実行委員会			12,470 鎌倉平和推進実行委員会					
	協 働 の パートナー	推進実行委員:			市民平和文化展実行委員会								
事務事業	総事業費(千円)		又化展美仃安县 12.564		12,486			13.620					
運営経費	市民1人当		•	<u> </u>	·			· ·					
廷占柱员	りの経費(円)		71		70			77					
	対象者1人				2.55			0.700					
	当りの経費(円)		3,088		2,355			2,792					
ベンチマーク	団体名⇒												
(県内外自治体													
や民間団体と													
の比較値)													
指 標		評価	評価 年度		22年度		23年度		24年度		最終年	F度(:	年度)
事業への市民参加		目標値		5,000	5,000 5,000		5,000		5,0	000		5,000	
◎目標を達成 ○目標に向かって前		実績値		4.879	5,30	2	4.068						
连 A 拱 (ず) 、			入候但	4,073	0,00			4,000					
評価のポイント													
-T/T 0 +0 h	①効率性	事業費や人	人件費に削減余均	也はないか。		②妥当		事業の目的と政策 は根拠や公的関			が整合して	いるか	。法的

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した 場合影響があるか。

③有効性

評価の視点

十 学术に 口 かいのい 学 木 の 町 画 (一 カラナス・ファ	が入る数国										
小事業名	H23決算値	評価	適切=〇、	要改善	善△(評価	iの視点を参照)	⇒	方向性		€•拡大 B:∄ 含縮小 E:廃		∷改善・見直し
	1,176千円	①効率性	〇 ②妥当性	0 3)有効性 △	④公平性 O	⇒	□A	■B	□С	□D	□E
平和推進事業	事業の概要					会などの平和推 目的とする、公						
		①効率性	②妥当性	3	有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□С	□D	□E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	3	有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□C	□D	□E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	3	有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□С	□D	□E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	3	有効性	④公平性	⇒	□A	□В	□С	□D	□E
	事業の概要											

④公平性

事務事業の課題及び取組状況

	ロウス (十) 中 ()) 三里 岩田	・平和推進事業の参加者は概して、中高年齢層に偏った傾向になっている。若い世代も多く参加できるような事業を実施していく必要がある。・具体的施策が啓発にとどまっているので、参加型イベントの検討をする。
ina		・小中学生を対象とした平和に関する講話を実施することで、若い世代が参加する機会となった。・東日本大震災被災者のための義捐金募金活動を平和推進事業で実施した。
		・啓発以外の取り組みとして、募金活動以外のイベントの検討ができていない。 ・戦争について語ることができる世代が年々減少する中、体験談等を記録に残す必要がある。

中事業の評価と今後の方向性

		適切=〇	①効率性	0		A:充実・拡大 B:現状継続C:改善・見直UD:統合縮小 E:房	Ĕ止·休止	※□事業完了	
		要改善=△ (評価の視点 を参照)	価の視点 ②妥当性 O 今後の	・平和都市宣言の精神を広め、後世へ伝えるため幅広い	1	課長等名			
			③有効性	Δ	力叫生	年代層が参加できる事業の企画立案に努め、また、啓発 的な事業のほかに、市民が主体的に参加できる施策の実 施に向けた検討について、実行委員会などとの協働により 取り組んでいきます。	В	文化人権推進課長	
			④公平性	0			Ь	青山 陽子	

(2面) 個別事業の概要 (単位:千円)

小事業名		ザイムスコード	田 則車業夕	00年在マケ	23年度決算値	個別車業の部	(単位:十円)
小 争 未 石							
			臨時的任用職員賃金	50		□適切	■見直し余地あり
			平和文化展案内ポスター印刷製本費	40		□適切	■見直し余地あり
			日本非核宣言自治体協議会負担金	60		■適切	□見直し余地あり
		465	鎌倉平和推進事業実施負担金	1,173	990	■適切	□見直し余地あり
	主な個						
	個						
平和推進事業	別事						
1 和正是子术	争業						
	+						
						□適切	□見直し余地あり
	主な個						
	個						
	別事						
	争業						
	× .						
						口適切	□見直し余地あり
	主な個別						
	個						
	別						
	事業						
	*						
						□適切	□見直し余地あり
	主						
	主な個別						
	別						
	事業						
	*						
Ц							